

Shake Hands 常滑国際交流協会



第118号 2017年10月17日発行

〒479-0837 常滑市新開町5-58 電話・FAX：0569-34-4797

E-メール：tia@japan-net.ne.jp ホームページ：<http://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



2017年度 ボランティア（英語）ガイド講習

受講者募集のお知らせ

ホームステイ、観光案内や国際交流など常滑を訪れる海外からのお客様を迎えて、ボランティアの通訳・ガイドとして活動しようとする方のために、ガイドや通訳の技術を学ぶ講習を行います。ぜひ、ご参加下さい。

記

★日時・プログラム 毎回土曜日、全5回 時間:午前10時～12時

- 1)11月25日(土)ガイドの基本/会場:常滑商工会議所東館
- 2)12月 2日(土) フィールドワーク(やきもの散歩道)
- 3)12月 9日(土) フィールドワーク(陶の森・資料館)
- 4)12月16日(土) フィールドワーク(INAXライブミュージアム)
- 5)12月23日(土) フィールドワーク(セントレア)

★募集人員:20名 ★レベル:高校卒業(英検2級)程度・ガイドとして活動してみたい方

★受講料:2,000円(当常滑国際交流協会会員は無料)

★常滑国際交流協会の個人会員の年会費は2,000円です。この機会にぜひご入会ください。

お問い合わせは当協会事務局までお願い致します。

お申込みの際には、名前、住所、電話番号、メールアドレスをお知らせ下さい。

事務局開設日時:毎週火・水・木の午後1時～4時

電話・FAX 34-4797 メールアドレス: tia@japan-net.ne.jp

〒479-0837 常滑市新開町5-58 常滑商工会議所内

常滑国際交流協会

ボランティア・ガイド日誌

東ミシガン大学の学生

彦根を拠点として日本文化を学んでいて、常滑にホームステイ中のアメリカ、東ミシガン大学の学生ジェームスさんを10月10日(火)当協会のボランティア・ガイドがやきもの散歩道の案内をしました。



シンガポールの陶芸家

9月28日(木)IWCAT2001年参加者のシンガポールの陶芸家リム・ファ・チューンさんが2名の陶芸家と共に訪れました。リムさん一行は今回は民泊を利用して約10日間の予定で日本滞在を楽しみました。



タイの学生 11名

10月4日(水)午後、名古屋大学に滞在中のタイのチュラロンコン大学の社会人の大学院生(女性6名・男性4名)と名古屋大学の未来社会創造機構の関係者2名とタイ人名大大学院生1名が常滑に訪れ、午前中はLIXILの榎戸工場で衛生陶器の生産工場を見学しました。



午後は当協会のボランティア・ガイド3名が案内しました。タイの学生たちは起業を目指して経営革新について学んでいるとのことで見学の希望のあった盛田株式会社の味の館でソニーの創業者の盛田昭夫氏の展示を見学し、味噌の醸造蔵を見学しました。

その後は常滑の産業の歴史を学ぶということで、陶の森の資料館で常滑のやきもの歴史について見学し、やきもの散歩道ではとこにゃんと招き猫通りの猫の陶彫を観光して名古屋へ帰りました。

常滑訪問は一行の最後の日程で、翌日5日にセントレアから帰国しました。

オランダから

1987年のIWCAT参加者のオランダのロブ・ムイラートさんご夫妻が来訪。ロブさんご夫妻は今回の訪問はIWCATの以後7回目の訪問で、今回は西国三十三観音の巡礼を目的として9月30日に来日。常滑では以前からの友人たちを訪ね交流し10月5日にセントレアから帰国しました。



常滑西小学校 派遣事業

常滑西小学校 国際交流委員会委員長 柚木みづほ

交流校：マレーシア ラジャムダト小学校

交流期間：平成 29 年 8 月 2 日（水）～8 月 22 日（火）

今年度の常西派遣団は男子 1 名、女子 7 名、リーダー 2 名の 10 名。派遣団を結成した時に、私は彼らにひとつだけ約束をしました。

『今日から派遣が終わるまで、絶対に派遣団全員がいつも仲良く笑顔でいること』



8 月 2 日の朝早く、たくさんのお見送りの方々に手を振ってマレーシアへと旅立ちました。現地時間の午後 8 時 50 分、予定の 30 分遅れでクアラルンプール国際空港へ到着。待っていたのは、笑顔いっぱいのホストファミリーたちでした。初めての対面を果たし、夜も遅いので各家庭へ…と思っていたようですが、着いたのはラジャムダト小学校。深夜にもかかわらず、ウェルカムパーティーを開いてくれたそうです。翌日のウェルカムセレモニ



ーでは、これまで練習してきた太鼓と踊り、リコーダー、マレー語での自己紹介。全校児童が約 1600 人、そして 100 人近い先生方を前に派遣団は堂々とカルチャーショーを披露しました。

クラスレッスンでは、折り紙やめんこ、お手玉、あやとり、手遊び、日本の歌、ひらがな、習字など、学びと遊びの中で文化の交流をしました。レッスンのために覚えていった英語がなかなか伝わらなかったようで、リーダーの補助と簡単な単語、そして身振り手振りのジェスチャーで必死に伝え乗り越えました。交流授業では、アラビア語を習ったり、マレーシアのダンスを教わってマレーシアの文化をしっかりと学ぶことができました。



派遣中の楽しみのひとつ、観光。ツインタワーとしては世界一のペトロナスツインタワーにのぼり、ピンクモスクやブルーモスクも行きました。また、学校の先生の結婚式にもマレーシアの衣装を着て参列したそうです。ホストファミリーでは、フラワー畑や動物園へ行ったり、ホストファミリーと一緒にマレーシア料理を作ったりして交流を深めました。



帰国後に派遣児童全員からお土産話を聞きました。みんな話したくて…どんどん私に近づいてくる。マレーシアでは楽しいことばかりではなく、言葉が通じなかったり思いが伝わらなくて寂しい思いもしたそうです。夜、涙がこぼれてしまうこともあったと。そんな時彼らはいつも派遣団という仲間で励まし合いながら笑顔で 3 週間を過ごしました。いつも笑顔で、楽しく仲良く。“派遣が終わるまで”という約束はしっかり果たされ、派遣が終わっても終わらない『素敵な仲間』ができていました。

タイ派遣事業を終えて

西浦北小国際交流実行委員会 古川早苗

西浦北小学校では平成29年8月6日(日)～8月20日(日)の2週間、児童8名、リーダー2名の派遣団が、タイ・バンコクにありますブラスーンミット校にてタイの子ども達と交流して来ました。ブラスーンミット校は、我が校とは比べ物にならないほどのマンモス校です。約1,500名の児童、先生方の前で、よさこい、忍者パフォーマンスなどのカルチャーショーを堂々と披露して来ました。クラスレッスンでは、日本語のあいさつ、折り紙などを、英語で一生懸命に教えて来たそうです。実際の反応を見ながら、子ども達自ら工夫を重ね、回を重ねるごとに上手く伝わるようになったと、子ども達自身も実感したそうです。また、派遣前にタイ語を教えて頂いたおかげで、現地ではタイ語で自己紹介ができ、現地の方々に大変喜んで頂けたそうです。たった2週間の派遣事業でしたが、この事業で得た喜びや自信が、この子達の人生の中で、年を重ねるごとに大きな力となっていくのだらうと思います。最後に、派遣中はもちろん、派遣前より親身にご指導頂きましたリーダーの先生方、またこの素晴らしい事業にご協力頂きました皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



中国派遣事業を終えて

鬼崎南小学校国際交流委員会委員長 酒井千晴

鬼崎南小学校のリーダー2名、児童8名の派遣団は8月14日～28日までの約2週間、中国広西チワン族自治区の柳州市にある弯塘路(ワンタンルー)小学校を訪問しました。

広西チワン族自治区は中国の南部に位置しベトナムとの国境に接しており、世界的に有名な観光名所の桂林があります。柳州市はその桂林から南西に車で2時間ほどいった、面積約18,000km²、人口約400万人の大規模な地方都市です。

弯塘路小学校は生徒数約1700人、先生100人ほどの学校です。派遣団が訪問した8月は学校の年度末の休みにあたり通常の授業はありませんでしたが、派遣団のために午前中は学校での中国文化を学んだり体験したりする特別な時間を組んでくださいました。午後は市内の博物館や公園などを見学することができました。学校最終日に派遣団がカルチャーショーを披露する際には、弯塘路小学校の児童も中国の踊りや歌を披露するなど盛大な日中文化交流となりました。そして、ホスト児童やホストファミリーが温かく迎えてくださり、優しく声をかけて常に一緒に行動していたので、非常に密な交流をすることができました。

今後も子ども達の国際交流が続いていくことを願っています。中国へ派遣するにあたり、多くの方にご協力ご支援頂きましたこと心から感謝申し上げます。

